

方針2 学びを楽しみ、輝く子どもの姿を実現する学校教育

1 豊かな心の育成

■現状と課題

- 生徒指導上の諸課題は多岐にわたり、増加し続ける不登校、認知件数が大幅に増加しているいじめ問題、低年齢化が進む粗暴行為、授業放棄等、担任だけでなくチームでの対応が求められています。
- 社会問題になっているSNS^{※44}上のトラブルが本市でも年々増加しており、情報モラル教育^{※45}や人権教育の推進が急務となっています。

■今後の方向性

- 教職員が「子ども理解^{※46}」を深め、子ども一人一人に寄り添い、チームで対応することで、生徒指導上の諸問題を未然に防止するとともに、問題が起こった際、家庭やスクールソーシャルワーカー（SSW）^{※47}、スクールカウンセラー（SC）^{※48}、関係機関等との連携を行い、迅速に解決できるよう、生徒指導体制を確立します。
- 問題を自分事として捉え、多面的・多角的に考える中で、仲間と議論を交わし豊かな心を育てていく「考え、議論する道徳」の授業への転換を推進します。
- 自分と他者との関わり方や自分も社会の一員であるという意識を育むとともに、道徳の授業だけでなく、教育活動全般を通して、情報モラル教育や人権教育を推進します。

※44 SNS…Social Networking Serviceの略。フェイスブックやインスタグラム等、人と人や企業と個人の間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するインターネットを利用したサービス。

※45 情報モラル教育…他者への影響を考え、人権、知的財産権等自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避等情報を正しく安全に利用できること、コンピュータ等の情報機器の使用による健康とのかかわりを理解することにより情報社会の特性を理解し、適正な活動ができる考え方や態度を各教科で身につける教育。

※46 子ども理解…子ども一人一人の行動の意味や心情を把握することにとどまらず、発達段階や生活環境、必要としている支援をも理解し、その子のよさや可能性を引き出そうとすること。

※47 スクールソーシャルワーカー（SSW）…不登校、児童虐待等生徒指導上の課題に対応するため、社会福祉の視点から問題を抱えた児童生徒本人に対する指導や、関係機関とのネットワークの構築、連携、調整等、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけながら支援をする職員。

※48 スクールカウンセラー（SC）…不登校、問題行動等に対応するため、心理専門の相談業務を行う臨床心理士。スクールカウンセラーという特別な資格はなく、精神科医や心理学分野の大学教員が担う場合もある。

■ 施策

① 個性を尊重する人間関係づくり

教職員の「子ども理解」が進み、子どもの思いに寄り添い、それぞれの個性が尊重され、一人一人に居場所がある環境づくりを推進します。また、生徒指導上の諸問題に対し、教職員、スクールソーシャルワーカー（SSW）やスクールカウンセラー（SC）などの専門スタッフ、関係機関等が連携し、解決を図るための生徒指導体制の構築をより一層推進します。

◎学校訪問等を通じた、「子ども理解」の重要性に係る教職員への周知

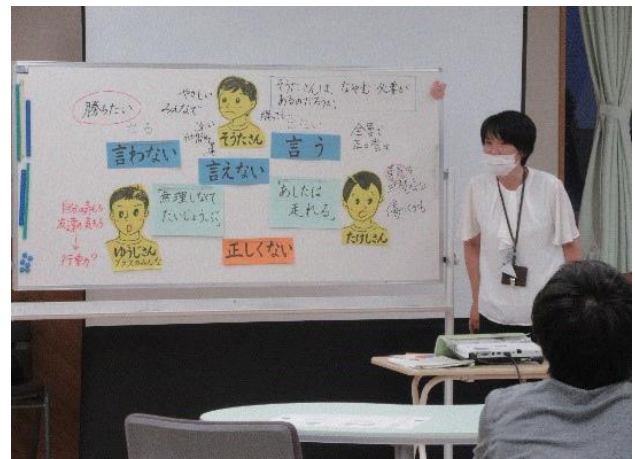
指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「自分には良いところがあると思う」に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した子どもの割合	小学校80.2% 中学校72.4%	小学校90% 中学校85%
算出方法：「全国学力・学習状況調査（児童生徒質問）」		

《その他の取組》

SSW研修の充実、特別支援の視点を大切にした学級づくりの推進、SSW参加のケース会議^{※49}の充実



挨拶運動



豊かな心の育成（道徳）

※49 ケース会議…「事例検討会」や「ケースカンファレンス」とも言う。解決すべき問題や課題のある事例を個別に深く検討することによって、その状況の理解を深め対応策を考える方法。ケース会議の場では、対象となる児童生徒のアセスメント（見立て）やプランニング（手立て。ケースに応じた目標と計画を立てること）が行われる。

② 人権感覚の醸成と道徳的実践力の育成

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値^{※50}についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める「考え、議論する道徳」の授業の在り方について、研修を推進します。また、個人情報保護や他人の人権を侵害しないことを目的とした情報モラル教育、子どもの自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育成する人権教育の充実を図ります。

◎教育活動全体を通じた計画的・組織的な人権教育と道徳教育の推進

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「人が困っているときは、進んで助けている」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した子どもの割合	小学校86.5% 中学校83.3%	小学校100% 中学校100%
算出方法：「全国学力・学習状況調査（児童生徒質問）」		

《その他の取組》

GIGAスクール構想の実現と併せた情報モラル教育の推進、児童生徒によるタブレット^{※51}等の使用ルールの制定、「富士市いじめ問題対応ガイドライン^{※52}」の周知と徹底、Q-U検査^{※53}の実施と分析と研究、学校訪問による組織的な人権教育と道徳教育の推進



道徳の授業風景

※50 道徳的諸価値…学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育におけるよりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎。

※51 タブレット…「タブレットPC」や「タブレット端末」等とも呼ばれる、板状のタッチ式デジタル機器。A4からB6ほどのサイズが多い。パソコンの基礎的な機能を備え、パソコンよりも薄く軽いので、持ち運びに便利でさまざまな用途に使うことができる。

※52 富士市いじめ問題対応ガイドライン…いじめ問題の解消に向けて、その対応を示したガイドライン。研修を重ねる中で、いじめの兆候をいち早く察知し、子どもからのサインをしっかりと受け止め、いじめを認知した後の具体的な対応等につなげていく。

※53 Q-U検査…Questionnaire-Utilitiesの略。学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等を質問紙によって測定する検査。児童生徒のいじめ、不登校等の問題行動に対して、未然防止と早期対応のため、客観的な資料として、学級指導、生徒指導に生かす。本市では、小5と中1で実施している。

2 確かな学力の向上

■現状と課題

- 主体的・対話的で深い学び^{※54}の実現に向けて、教員は、子どもに付けたい力^{※55}を明確にし、学習状況を的確に把握した上で、個の特性や学習状況に応じた指導や授業づくりを意識して行っています。
- 学校内外での研修に積極的に取り組むなど、教員の学ぶ意欲は高く、課題解決を意識した授業づくりが行われていますが、「課題解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいる」という子どもの意識は十分ではありません。
- 「話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりする」ことに関して子どもの充実感が高いとは言えません。
- 「実生活における事象との関連を図った授業を行っている」意識は、小学校・中学校いずれの教員ともに高いものの、「授業で学んだことをほかの学習に生かしている」という子どもの意識は、それほど高くありません。
- ICT機器を活用しての学習については、全国平均に比べて中学校では上回っている一方、小学校では下回っており、教員の力量や慣れに差があります。

■今後の方向性

- 子どもに寄り添った指導となるように個の特性や学習状況を的確に把握し、適切な指導を行うことを通じて、子どもたちの学びを楽しむ姿を追究します。また、教職員の特別支援教育への理解を深め、適切な支援や指導の仕方を学ぶことで、一人一人の学びがより充実するよう努めます。
- 子ども理解に努めるとともに、深い「教材理解」^{※56}に心掛けます。また、付けたい力を明確にし、子どもの問いを大切にした単元構想^{※57}、授業づくりに努めます。
- 身に付けた知識・技能を活用し、「思考力・判断力・表現力」^{※58}を育むための学習を、単元構想や授業の中で意図的に位置付けていきます。
- 1人1台端末・高速通信環境整備の利を生かし、ICT機器を積極的に活用します。研修等を通じた教員のICT活用指導力の向上、情報モラル教育等の充実により、子どもたちの思考を促すためのICT機器の効果的な活用方法を探り、学びを充実させます。

※54 主体的・対話的で深い学び…学習指導要領において示された、授業において、子どもが学習内容を深く理解し、資質・能力を育成するために「どのように学ぶか」という具体的な学びの姿のこと。

※55 付けたい力…各教科・領域の単元や1時間の授業における目標として示される、学習を通して身に付けたい資質・能力。教科固有の見方・考え方に加え、児童生徒の実態や教職員の願いから設定される。

■ 施策

① 主体的に学びに向かう力の育成

子ども理解のもと、付けたい力を明確にし、子どもが問いを持つための深い教材理解による授業を行い、子どもの学習状況の的確な把握を指導に生かすことで、子ども一人一人が主体的に学びに向かう力を育成します。また、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育む場面を設定し、一人一人が学びの実感を得られる授業づくりを行います。

◎校内研修や学校訪問等による授業改善の推進

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合	小学生74.7% 中学生68.9%	小学生90% 中学生80%
算出方法：「全国学力・学習状況調査（児童生徒質問）」		

《その他の取組》

子どもの問いを生かした授業づくりの推進、一人一人の変容を認め価値づける子どもの伸張の評価の推進



タブレット端末を使っでの意見交換



生徒同士の話し合い

- ※56 教材理解…学校教育において扱われる教育素材（教科書だけでなく、体験活動や学校行事等教育活動を含む）の教育的な価値や、その素材を通して付けたい力を明確にすること。
- ※57 単元構想…ある教育素材を用いて授業を行うに当たり、子ども理解や教材理解を基に、授業の流れや意図的な問いかけ、予想される子どもたちの反応等を組み込んで、ひとまとめでした学習計画の構想。
- ※58 思考力・判断力・表現力…学習指導要領において「未知の状況にも対応できる力」として定義されている。Society5.0の時代において、基礎的な知識及び技能を活用して課題を解決するために必要となる力とも言われる。

② 習得、活用、探究による学びの深化※59

言語環境の整備と言語活動の充実、情報活用能力、問題解決能力等は学習の基盤である資質・能力です。それらの力を育むために、個別や協働といった学び方や学びの場面に応じて、ICT機器を効果的に活用する等学びの最適化を図り、習得・活用・探究という学びの過程の中で「深い学び」を実現します。

◎習得・活用及び探究を意識した単元構想・授業づくりの推進

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」に「よく行った」と回答した学校の割合	小学校11.1% 中学校37.5%	小学校50% 中学校60%
算出方法：「全国学力・学習状況調査（学校質問）」		

《その他の取組》

学び方や学びの場面に応じてICT機器を効果的に活用した授業づくり



意見発表



タブレット端末を利用した共同学習



調べ学習

※59 学びの深化…各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりして、学習が充実していくこと。

3 健やかな体づくり

■現状と課題

- 就寝時間が遅い、朝食を食べていない、排便が毎日ない等、基本的な生活習慣の確立が不十分なことから、学校生活への影響がみられます。
- 食物アレルギーによる学校給食への対応が必要な子どもが増加しています。
- インターネットやPCゲームの普及に伴い、家庭における運動機会が減少し、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、記録の平均値や「運動が好きである」の回答が低下しています。
- 中学校では、生徒数減少に伴う運動部活動の数と部活動時間が減少しています。
- 交通事故やSNSを介した犯罪被害等、子どもたちが巻き込まれる重大事案が増加していることから、自分の命を守るための知識や実践力が求められています。
- 近年、気象災害の激甚化や南海トラフ巨大地震、富士山噴火等の大規模災害が懸念され、防災教育の必要性がより一層高まっています。

■今後の方向性

- 健康な心身の育成のために、「バランスのとれた食事」「十分な休養と睡眠」「適度な運動習慣」といった基本的な生活習慣の確立を図ります。
- 給食を通じて、多くの食材と接し、生産や調理に関わる過程や食文化を知る等、様々な経験をすることにより、健全な食生活を実践できる人を育てます。
- 教育活動における運動の機会を創出し、体育の授業において運動好きの子どもを育成します。
- 地域人材や外部指導者を活用し、スポーツの機会の創出や部活動支援を進めます。
- 自分の身を守るための適切な判断ができるよう、安全に関する教育を推進します。
- 子どもの発達段階や地域の実態を踏まえた「自助・共助・公助」の意識を高め、安全について自ら考え、主体的に行動する力を養う等、防災教育の充実を図ります。

■ 施策

① 生活習慣を整えられる子どもの育成

生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を培うため、保健教育の充実を図ります。また、食への興味を持ち、正しい知識や望ましい食習慣を学ぶことで、生涯にわたる生活習慣の基礎が培われるよう、学級担任や栄養教諭等を中心に、家庭や地域とともに連携して食育を推進します。学校・保護者・関係機関等と連携し、自校直営方式を生かしながら、充実した学校給食の提供を推進します。

◎健康指導の充実

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
毎日、同じくらいの時刻に寝ていると答えた子どもの割合	小学校77.5% 中学校74.1%	小学校85% 中学校80%
算出方法：「全国学力・学習状況調査（児童生徒質問）」		

《その他の取組》

「食に関する指導の全体計画」（各学年計画含む）の活用、栄養教諭による授業の実施



栄養教諭による授業



生活習慣について学ぶ

② スポーツを楽しむ子どもの育成

生涯にわたってスポーツに親しむ子どもの育成のために地域との連携を図り、地域人材や外部人材を活用した教育活動を推進します。

◎体育の授業づくりの支援と運動環境の整備

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「運動やスポーツをすることが好きか」に「好き」「やや好き」と回答した子どもの割合	小学校92.4% 中学校87.3%	小学校95% 中学校95%
算出方法：「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」		

《その他の取組》

外部人材の活用（地域人材等のゲストティーチャー※60、部活動指導員※61）、地域と連携した子どものスポーツ環境整備、スポーツ観戦・体験機会への参加の呼びかけ



映像による振り返り学習



体育の授業

※60 ゲストティーチャー…学校において、一般の方が特技や経験、職業知識等を生かして授業サポート・授業支援を行ったり、子どもたちの学びをサポートしたりするボランティア支援員。

※61 部活動指導員…校長の監督のもと、部活動の技術指導や大会への引率等を行うことを職務とするスタッフ。平成29年に学校教育法施行規則第78条の2に定められた。

③ 自ら命と体を守るための安全教育の充実

具体的な場面を想定し、命を守るための知識や実践力が身に付く安全に関する教育を推進します。また、子どもの発達段階や地域の実態を考慮し、地域と連携した防災教育を推進します。

◎子どもの発達段階を考慮した段階的な防災教育や安全教育の推進

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「緊急時に自分の命を守るために適切な判断と行動をとることができる」と回答した児童生徒の割合	小学校 ー 中学校 ー	小学校70% 中学校85%
算出方法：各校への聞き取り調査による（参加児童生徒数／全校児童生徒数）		

《その他の取組》

交通安全教室の実施、交通安全リーダー※62と語る会の実施や地域と危険箇所等の情報交換、地域防災訓練への参加、危機管理マニュアル※63等の定期的な見直し



交通安全教室

※62 交通安全リーダー…小学校6年生の全員が「交通安全リーダー」として、交通事故ゼロを目指して活動を行う、静岡県独自の取組。交通安全リーダーは、学区の交通安全を呼びかけながら、交通ルールの手本となるよう行動をとるとともに、下級生の指導等を行う。

※63 危機管理マニュアル…危険等が発生した際に教職員が円滑かつ的確な対応を図るため、学校保健安全法に基づき、全ての学校において作成が義務付けられている危険等発生時対処要領。

4 頼もしい教職員の育成

■現状と課題

- ベテラン教員と若手教員の二極化が進み、今後ベテラン教員の退職による不均衡な年齢構成となるため、中堅教員のマネジメント力^{※64}等の資質向上が急務です。
- 教員の教科指導力、学級経営力及びICT活用力を高めるための時間が必要である一方で、働き方改革を進めていく難しさがあります。
- 教育上の諸問題への対応から、多忙化の進む教職員の勤務状況を受け、心身の健康の維持・向上への配慮が必要であり、その中で、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教員が求められています。
- 教育や学校を取り巻く環境が変化している今、様々な変化に適切に対応した教育活動を行うことのできる教職員や、新しい学校の在り方を模索し学校組織を牽引する教職員など、学びを支え、人として魅力ある教職員の育成が求められています。

■今後の方向性

- 熟練教員の退職増加や若手教員の増加に伴う不均衡な年齢構成を踏まえ、中堅教員の資質向上と若手教員の育成を推進します。
- 教職員の資質・能力を向上させるために、指導主事による計画訪問や要請訪問を実施します。また、キャリアステージ^{※65}に応じた教職員研修を実施します。
- 「富士市小中学校における業務改善プラン^{※66}」を踏まえ、教職員の働き方改革を推進します。また、教職員が互いに日常から声を掛け合い、気持ちよく働きやすい職場づくりを心掛けます。
- 大学、企業、NPO等、専門的な分野での知識・技術を持つ機関との連携により、教職員研修の充実を図ります。
- GIGAスクール構想の実現により、ICT機器を活用した授業改善が行われるように教職員研修を推進します。

※64 マネジメント力…業務に、効果的に取り組むために、業務の内容を整理したり、進め方を工夫したりする等、他の教職員と情報の共有を図りつつ、業務を見直し改善する力。

※65 キャリアステージ…組織内における経験年数に応じた役割分担のレベルを示す基本的な考え方。

※66 富士市小中学校における業務改善プラン…教職員個々の主体的な取組と学校における組織的改善を推進するための計画。教育の質の向上と教職員の心身の健康の保持増進を目的とし、学校における業務改善を目指す。

■ 施策

① 教職員の資質・能力の向上

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、学校教育に対する期待に応えるため、教育活動の直接の担い手である教職員に対する揺るぎない信頼を確立し、教職員の資質能力がより一層高いものとなるように研修を推進します。

◎ 「教科等研修」「危機管理研修」「メンタルヘルス研修」等の研修の充実

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「安心して子どもを任せられる学校である」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合	—	100%
算出方法：学校評価（全校実施）		

《その他の取組》

大学と連携した学校訪問や外部講師招聘による校内研修の充実、学校訪問や要請訪問での指導主事の指導の充実



教員の授業力向上のための校内研修



教員同士の話し合い

② 学び続ける機会の充実

目指す子ども像を具現化するために、各校が研修を充実させ、教職員の資質・能力を高めるための支援体制を整えます。また、各キャリアステージにおいて求められる資質・能力を兼ね備えた教職員を育成するための研修体制と環境を整えます。

◎ 「3年目研修」や「ミドルリーダー研修^{※67}」、「マイスター研修^{※68}」等の年代別研修の充実

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」に「よくしている」と回答した学校の割合	小学校48.1% 中学校31.3%	小学校80% 中学校75%
算出方法：「全国学力・学習状況調査（学校質問）」		

《その他の取組》

「危機管理研修」「ICT研修」等のアフター5研修^{※69}の充実



アフター5研修



アフター5研修「授業づくり」
YouTube「学校教育課チャンネル」

※67 ミドルリーダー研修…経験年数がおおむね10年程度から、年齢が40歳半ばまでを対象とした、年代別の研修。ミドルリーダーとしての資質能力の発揮を目指し、資質能力の向上を目指すとともに、自らの立場や役割を自覚して学校運営に参画することを目的とする。

※68 マイスター研修…年齢が40歳半ばから退職までを対象とした、年代別の研修。充実・発展期に身に付けた資質能力に加え、指導的な立場として、学校運営のサポート役や校内の人材育成の推進役を務めるとともに、専門性をより深め、自らの描いた理想とする教員像の実現を目指す。

※69 アフター5研修…急速な社会変化と教職員のニーズに対応する自主参加型研修。

③ 効果的な教育活動のための働き方改革の推進

教職員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、魅力的な人間性や豊かな創造性を高め、効果的な教育活動を行うことを目的として、学校における働き方改革を推進します。

◎業務改善プランの徹底

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「業務改善が進められているか」に「充分進んでいる」と回答した学校の割合	—	60%
算出方法：学校評価（全校実施）		

《その他の取組》

勤怠管理システム^{※70}の運用、共同学校事務室^{※71}の運営



職種別研修

※70 勤怠管理システム…労働時間を適正に把握・管理する責務において、労働者の労働日ごとの始業・終業時刻を確認し、適正に記録するための機能。

※71 共同学校事務室…各校共通の事務を集中処理する共同体制。学校事務職員は通常1人の配置であるが、複数人で複数校の事務を行う共同体制を導入することにより、各校で教員、学校事務職員が担っている役割を見直し、教職員の負担を軽減する。また、教職員の役割の処理の効率化を図り、教職員の多忙化解消を推進する。

5 未来を切り拓く生徒を育成する市立高校

■現状と課題

- 令和4年度から実施される高等学校学習指導要領では、「探究」を冠した科目が設定され、どの高校でも探究学習が行われるようになるため、他校との差別化を図る必要があります。
- キャリア教育^{※72}の充実が生徒の多様な進路希望を生み出しており、生徒一人一人の希望を実現させるための進路指導が求められています。
- 市立高校という独自性を活かし、地域と一体となった教育活動を推進することにより、市民に愛される市立高校であり続けなければなりません。
- 情報化社会が大きく進展する中で、ICT機器を積極的に活用した教育が求められています。
- 少子化の進行による高等学校入学者数の減少により、中学生に選ばれる魅力ある高等学校づくりが求められています。

■今後の方向性

- 市立高校開校以来10年間で積み上げてきた探究学習を土台として、より発展的で専門性を持った探究学習に取り組みます。
- 生徒一人一人がより高い進路目標に到達できるよう、教職員が一丸となって生徒に寄り添った支援を行います。
- 地域と連携した教育活動やコミュニティ・スクールとしての学校運営を通じて、地域に愛される学校づくりを目指します。
- GIGAスクール構想による小中学校のICT機器活用の教育活動の成果を継承できるよう、ICT環境の整備を図るとともに、ICT機器を活用した教育を進めます。
- 市立高校独自の教育活動を充実させるとともに、教育活動の情報発信を通じて中学生に選ばれる学校づくりに努めます。

※72 キャリア教育…子ども・若者が、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育。

■ 施策

① 探究する精神と姿勢を育む教育活動の推進

開校時より築き上げてきた課題解決型学習「究タイム」、学科や教科で実践している探究を取り入れた学習をさらに磨き上げます。各教科においても探究を意識した授業づくりを行います。

◎ 「究タイム」及び探究を取り入れた授業の実践

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
「探究学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う」と答えた生徒の割合	85.5%	95%
算出方法：総合的な探究の時間「究タイム」アンケート（3年生）		

《その他の取組》

海外探究研修、学科別集中研修



市役所プラン



探究学習発表会



オンライン研修

② 生徒の夢実現への支援と充実

生徒が「夢」(進路)の選択肢を広げられるよう、企業や大学など外部と幅広く連携したキャリア教育を行います。また、生徒が常に目標を高く持ち、夢の実現に打ち込めるよう、生徒一人一人に合わせた進路指導を行います。部活動においても夢を実現できるように、指導体制などの環境を整えます。

◎多様な進路希望に対応した細やかな進路支援

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
自分の思い描いていた進路を実現できたと回答した生徒の割合	—	80%
算出方法：3年生対象の3年間の学校生活に関するアンケート		

《その他の取組》

キャリア講演会の開催、大学等との連携、外部講師を招いてのキャリア教育の推進、課外補講・模試による進路啓発、資格取得の奨励、部活動に打ち込める環境整備



部活動 (サッカー)



部活動 (吹奏楽)



職業人講話

③ 地域ネットワークを活用した教育活動及び学校運営の推進

地域住民や保護者、学識経験者などで構成される学校運営協議会からの提言を受けて学校を運営します。市や地域、地元企業などと連携した教育活動の展開や、地域との交流事業を通じて、市民に開かれた学校づくりを進めます。

◎地域社会や大学、行政、企業等と連携した教育活動の推進

指標	現状値 【令和元年度】	目標値 【令和8年度】
地域社会や大学、行政、企業等と連携して実施した授業や学校行事数	14件	20件
算出方法：大学や企業等と連携した授業や学校行事数		

《その他の取組》

学校運営協議会の運営、地域交流事業、学校施設の開放事業、学校案内等学校広報活動



学校運営協議会



人工芝で遊ぼう